

## 総評 第19回 山中湖フォトグランプリによせて

昨年は、異常気象のため山中湖に涼を求め、大勢の観光客で賑わいました。富士山ははっきりと見える日が少ない一年でしたが、海外からの観光客も片手にスマホを持ち、楽しんでいるようでした。

フォトグランプリにはそれでも、去年より多数の応募がありました。3年前からデータでの提出が可能になり、今回はプリントの数を超してデータの方が多くなったことも、時代の変化を感じています。

山中湖は富士山以外でも風光明媚なこと、湖や森、丘や花など被写体は限りなく、夜景の撮影も狙いやすいと思います。

去年は色々な天体ショーがあり、特に土日は湖畔を埋め尽くすほどの人たちが写真を撮っていました。

これからもデジタル、スマホの進化によりますますその影響があるものと思います。

応募作品では、今まで見られなかった見過ごしていた場所などもお多く、山中湖の標語でもある「出会い、新鮮、感動」その言葉通りに、改めて被写体の多い写真の都として十分に応えてくれる所です。

これからもリゾート地・山中湖にお越しくださり、来年第20回目を迎えるこのコンテストがますます素晴らしいたくさん作品で溢れますよう、期待しております。

審査委員長

公益社団法人日本写真家協会会員 富塚晴夫